

# WDSF世界選手権ユース10ダンス遠征報告

～熾烈な舞台で勝ち取った藤井・吉川組の輝かしい世界第4位～

- 開催日：2016年11月5日（土） ●開催地 ラトビア共和国リーガ市
- 日本メンバー 代表選手：藤井 創太・吉川 あみ 帯同役員：竹下 次郎  
同 伴：宮岡 光秋、杉崎 雅彦、杉崎加代子、吉川 美香



選手強化部  
竹下 次郎



ホテルから競技会場の Sport Hall Daugava へは、貸切の送迎バスがあり、30分程で到着しました。外気温は-2度。雪も積もっており、かなり寒いはずですが、これから始まる競技への意気込みが、寒さを感じさせませんでした。

そして、すでに会場ではジュニア、ジュブナイルの競技が行われており、熱気が充満していました。競技開始は14時、競技終了は23時30分。一次予選⇒二次予選⇒準決勝（セミファイナル）⇒決勝（ファイナル）まで踊った曲は合計40曲です。

## ☆13時受付14時競技開始

出場組数は30ヶ国30組で、ヨーロッパ各国が中心で、東アジアからのエントリーは日本のみでした。リダンスなしで、一次予選からヒートシャッフルです。開始直前までタイムスケジュールが掲示されなかったこともありましたが、帯同役員としての私が、大会本部役員にきちんと競技開始種目の確認を忘れたことが原因で、スタンダードとラテンの衣装を急遽着替えるアクシデントがありました。先入観で対応するのではなく、明確な情報をもとに行動することが重要であると痛感しました。

## ☆1次予選からパワー全開

踊りだしから二人は躍動感に溢れ、たくさんの観客から大きな声援を受けていました。ただ、長旅の疲れや世界選手権という大舞台でのプレッシャーもあったのか、一次予選を踊り切った二人には、かなりの疲労感が見えました。特に、リーダーの藤井創太の体調は優れなかったようでした。

それ以後は、一曲、一曲、フロアに入る度に「ダンスを楽しんでね！向こうの席で応援しているから」とベブトークしながら、二人を送りだしました。

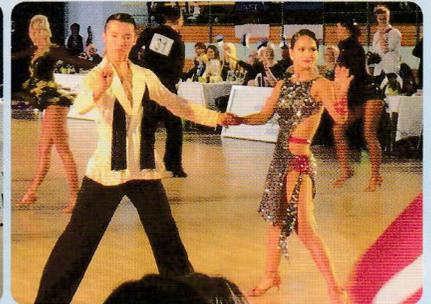
セミファイナルでは二人とも疲労感が極限まで達した様子で、足が攣り、踊り終える度に座り込んで、足を休め、そしてまたフロアに向かう。まさに、気力・体力の限界まで挑戦するトライアスロンのようでした。

## ☆ファイナル進出

決まった時に藤井創太が「狙いますよ！」と言った一言がとて印象的でした。ファイナルは、スタンダードはSlow fox、Quick stepラテンはChachacha、Jiveがソロ競技で、踊り終えると大型モニターに採点結果が直ぐに表示されました。そして、最終順位が4位と決まった瞬間、私たちは思わずガッツポーズで「やった！」と叫びました。二人は表彰式が終わった後、多くの観客から握手と写真を求められ、



スタンダードを踊る藤井組



藤井組のパワフルなラテン

笑顔で応じていました。このような交流から、日本代表 藤井創太・吉川あみ組の海外ファンが増えていくことがとても嬉しかったです。

今回の熾烈な世界舞台で勝ち取った藤井創太・吉川あみ組の世界第4位は、本当に輝かしい成果です。そして、世界の風を二人が受けて、自分たちの踊りと体力を改めて見直すチャンスを得たことで、更に進化していくきっかけとなることを期待しています。優勝は7月北九州市で開催されたユース世界選手権スタンダード準優勝（翌日のWDSFオープンラテン優勝）のDenis Gudovsky・Megija Dana Morite組（ラトビア）でした。



表彰式



競技会場  
Sport Hall Daugava